

私とオリンピック —ジャンプ少年の思い出 with トリビアー—

知 本 康 男

§1 はじめに

本稿を執筆する機会を頂きました。やっぱり世代的に札幌オリンピックですね。前号(CH138)の金氏、前々号(CH137)の対馬氏の投稿文のように、私も当時の大会パンフやサイン帳等のコレクションを披露しながら思い出話に花を咲かせようと目論んでいましたが、なんと関連資料一式を仕舞いこんだ箱を引越しの際に誤って捨ててしまったようで、落胆のどん底。気を取り直して、そして開き直って思いつきマニアックな内容に特化(酔狂?)してしまうことお許し下さい。

§2 日の丸飛行隊

1972年(昭和47年)2月、テレビから流れてきたNHK北出アナウンサーの“飛んだ! 決まった! 見事なジャンプ!”は、全国民を震撼させたと同時に、テレビの前のひとりの少年(私)の心にも熱いメッセージが突き刺さりました。『日の丸飛行隊』と称された日本ジャンプ人による表彰台独占という偉業を目の当たりにした少年にとって、小樽ジャンプ少年団の門を叩くまでにさほどの時間は必要ではありませんでした。アプローチでは日の丸グローブで空気を揉み解し、空中姿勢では手首を小羽のように外側にちょこんと開き、着地では腰の低い



写真-1 日の丸飛行隊の勇姿

トリビアー①：実は1本目の競技が終了した時点ではなんと1位～4位(藤沢選手)まで全て日本人選手が独占していたことはあまり知られていません。

テレマーク姿勢。とにかく笠谷選手のこれらの動作を懸命に真似たことだけは記憶に鮮明です。

トリビアー②：優勝した笠谷選手を肩車して称えたのは日本人スタッフではなく、最大のライバルであったインゴルフ・モルク(ノルウェイ)でした。この時のスポーツマンシップに目頭が熱くなりました。

§3 宮の森シャンツェ

この5月、今は訪れる機会が少なくなった宮の森シャンツェに足を伸ばしました。すっかりサマージャンプ仕様で人工芝の緑がとても眩しく洗練されたシャンツェになりましたが、やはり目に付いたのは3本のフラッグポールです。ここに日の丸3本が棚引いた金字塔を思い出さずには居られませんでした。

トリビアー③：まさか日の丸が3本上がるとは誰も想定しておらず、1本目競技が終了した段階で三つ目の日の丸が美香保体育館から急遽届けられた!というまことしやかな噂が当時ながれていました。



写真-2 現在の宮の森シャンツェ

§4 伝説のジャンパーたち

さて、ここから少しディープな話になります。写真-3(次頁)を見てください。1位～3位は言うまでもありませんよね。ちなみに当時の所属先は順に、ニッカウキスキー、拓銀、雪印乳業となります。ジャンプ界では往年の実業団ですね。

4位は先に述べた笠谷のライバル肩車モルクです。まだジャンプ競技ではヘルメットを着用していなかった当時、モルクが被っていた防護帽(ウレタンクッション風/写真中左下)がどうしても欲しくて堪らず、スポーツ店を探しましたが入手できませんでした。5位のラスカ(チェコスロバキア)は独特なアプローチスタートで記憶に残っています。普通の選手はゲートから勢いよく飛び出して、パンパンと2回ほど飛び跳ねて2本のシュプールラインに乗るのですが、彼はクロスカントリーのようにシュルシュルとアプローチを真横に歩いて他の選手よりも少しでも高い位置からシュプールラインに乗るスタイルです。こんな独創的なスタートは私の記憶ではラスカだけです。6位のフォルトナ(ポーランド)な国際大会では無名でしたが、この後の90m級で金メダルを獲得しました。ゴメンなさい。少しマニアック過ぎました。



	M.	P.
1 笠谷幸三 Y. KASAYA	84.0	244.2 JPN
2 金野昭次 A. KONNO	82.5	234.8 JPN
3 青地源二 S. AOCHI	83.5	229.5 JPN
4 INGOLF MORK	78.0	225.5 NOR
5 JIRI RASKA	78.5	224.8 TCH
6 WOJCIECH FORTUNA	82.0	222.0 POL

写真-3 宮の森シャンツェ脇の記念碑

§5 札幌五輪再び！

報道でご存知のように、札幌市は2026の誘致に向けて舵を切りましたが、2018(平昌)、2022(北京)とアジアでの連続開催が決まっているので、傍から見れば間違いなく逆風・向い風(ジャンプなら嬉しいのですが…)でしょう。カナダのケベックは先日誘致断念を表明したので、スイスが事実上のライバルですね。個人的には是が非でも、もう一度札幌でオリンピックを体感したい気持ちで一杯です。

トリビア④：実は1940(昭和15年)に札幌オリンピックの開催が決まっていたのですが、戦火激化により開催を返上したと言う経緯があります。でも、その当時の札幌で本当に開催できたのだろうか？

§6 インフラオリンピック

ここで少しだけ業界人っぽい意見です。札幌オリンピックは、競技関連施設だけではなく地下鉄整備(真駒内～北24条)や千歳空港の国際化など交通インフラの発展に寄与しました。もし、2026の札幌オリンピック開催が決まったら、北海道新幹線の札幌延伸の前倒し整備が現実味を帯びますね。ニセコでアルペンの滑降競技が開催される予定ですので効果観面です。また、札幌市内では札幌ドームへの地下鉄延伸は必至で、丘珠空港のジェット化、それに伴う地下鉄の延伸(空港乗り入れ)も期待します。

トリビア⑤：実は札幌自動車道もオリンピックに間に合わせて突貫で建設(暫定二車線)されました。当時は船舶で来日する共産圏の選手団も多く、小樽港からのホットラインとして活躍しました。

§7 おわりに

冒頭でオリンピック関連資料を失い落胆した話をしましたが、別カテゴリーのコレクションを漁ってみると、辛うじてトワエモアのレコードと記念メダルが手許に残っていました。いい歌ですよ。2026、札幌の街で流れていることを切望します。(トリビア⑥～⑩はまたの機会に！)



写真-4 レコードとメダル

知 本 康 男 (ちもと やすお)

技術士(建設/応用理学/総合技術監理部門)

基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社

